

平成 15 年度 講義内容

会計学総論、商 1234 選必 10 以前商 1234 必

講義のねらい：会計学の基礎知識および会計情報の役割について学習する。後半の授業では前半の知識の上に立って、さらに企業活動の重要な記録計算システムのモデルと、そのバリエーションとしての革新的記録計算システムを学習する。

講義の内容・講義スケジュール：前半は簿記の基礎知識をとおして会計全体の基礎を学習する。後半では会計情報と経営・経済とのかかわりについて教科書の演習問題にそって学習する。

履修上の留意点：前半も後半もいずれも教科書にそって講義する。

成績評価の方法：定期試験による（前半と後半の講義からそれぞれ1問を予定）。

教科書：加古・渡部『新検定簿記講義3級』（中央経済社、¥648）；石川純治『経営情報と簿記システム（3訂版）』（森山書店、¥2,500）。

参考書等：力のある学生には畠村『図説会計学（増補版）』（税務経理協会）を薦める。その他については、その都度指示する。

その他：一方的授業を避けるため、まず「何が問題か」そしてそれを「どう解くか」を明確にするため設問を解いてもらい、そのあとで教科書にそって解説するという方式をとる。

会計情報論、経A商 1234 選 経B 1234 選

講義のねらい：今日の企業会計は歴史的にみても、これまでにない大きな変革期に直面している。「会計ビッグバン」（会計制度の一大改革）という言葉がそれを象徴している。では、その変革はどこからくるのであろうか。そもそも、会計情報の存立基礎はどこにあるのだろうか。会計情報の性格や役割はこれまでとは異なった方向に進んでいくのであろうか。これまでの利益計算の仕組みは何であり、それは今後、根本的に変わるものであろうか。

本講義では、こうした今日の企業会計と会計情報をとりまく諸問題を、制度と理論の双方から取り上げる。特に、米国でおこったエンロン問題など不正会計疑惑の根っこにあるものや、国際会計基準の世界統合化問題の背後にあるもの、そしてわが国の会計制度史上の画期的事件ともいえる民間の基準設定機関の創設や減損会計の導入問題の背後にあるものなど、さまざまな会計情報をめぐる時事問題もケースとして取り上げ（ホームページに掲載中）、そこにどのような問題が潜んでいるか、その洞察力を得ること（企業会計の政治経済学）を1つの目標にしたい。

講義の内容・講義スケジュール：今日の企業会計のあり方の1つのキーワードは「キャッシュ・フロー」である。そこで、前半の講義では新たな財務諸表の一角を担うようになったキャッシュ・フロー会計情報を取り上げ、その計算の仕組みとキャッシュ・フロー情報の役割り、とりわけ企業価値（株主価値）とのかかわりについて学習する。後半の講義では、「会計ビッグバン」のもつ

とも重要な位置にある「時価会計」を中心にその制度と理論を学習し、あわせて会計情報をめぐる「政治経済学」についても学習する。

〈前半の講義〉

- 1 全体の講義紹介
- 2 キャッシュ・フロー計算書の作成方法
- 3 損益計算とキャッシュ・フロー計算
- 4 3つの財務諸表の動的相互関連
- 5 キャッシュ・フロー革命と企業経営
- 6 エクセルとアカウンティング

〈後半の講義〉

- 1 時事会計入門
- 2 金融商品会計の理論と制度
- 3 現在価値会計の理論と制度
- 4 無形資産の会計問題
- 5 資本の会計問題
- 6 企業会計の政治経済学

履修上の留意点：前半は教科書にそって講義する。解説はOHPを用いる予定。前半の講義の最終回に私のホームページにある4つのデモンストレーションをおこなう予定。後半については会計学の基礎知識をもっていることが望ましい。

成績評価の方法：定期試験による（前半と後半の講義からそれぞれ1問を予定）。

教科書：石川純治『キャッシュ・フロー簿記会計論（改訂版）』（森山書店、¥2,500）

参考書等：石川純治『時価会計の基本問題』（中央経済社）。

その他：前半の講義では一方的授業を避けるため、まず「何が問題か」そしてそれを「どう解くか」を明確にするため設問を解いてもらい、そのあとで教科書にそって解説するという方式をとる。特に、「系統だって学習する」ことの重要性を強調する。

演習Ⅰ、経A商2選 いしかわじゅんご 石川純治
演習Ⅱ、経A商3選 いしかわじゅんご 石川純治

講義のねらい：企業会計の制度と理論を学習します。「制度」の基礎にある土台としての「理論」の両者の関係において学習することが基礎にある視点です。社会・経済における「生きた会計」を学習するために、「時事会計」を重視します。したがって、会計の基礎にある社会経済問題への関心が大切で、それとの関連で会計を学習します。会計をとおして世の中の問題に発言できる洞察力を得られればと思っています。

講義の内容・講義スケジュール：まず財務会計の基本テキストを学習し、その後、中級・上級のテキストへとレベルアップします。中級・上級では財務諸表論、米国会計基準・国際会計基準が学習内容となります。さらに、それらをより高い次元から見通す力を養うため、「時事会計」では新聞・雑誌・小論文の学習を行います。

成績評価の方法：出席・合宿・レポートなどゼミ活動の総合評価。

教科書：その都度指示します。

参考書等：『日本の論点 2003』（文藝春秋）。その他、必要に応じて指示します。

その他：国家試験に挑戦する意欲ある学生、世の中の社会経済問題に関心をもっている真摯な学生が歓迎されます。